

第1回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「自分の中で変わったこと」

福島県

南相馬市立福浦小学校 6年

原 奈津季

自分の中で変わったこと

南相馬市立福浦小学校 六年

原 奈津季

「お母さん、この詩、大好きだったんだよ」

宿題の音読で、『美文朗誦』という本の中の「ばら二曲」という詩を読んでいるときのことでした。

「高校生のころね、とてもきれいな言葉がたくさん使われているなと思って、何回も読んだんだよ。奈津季も覚えてみたら」

と、母が言いました。それまでも、国語や社会の教科書を読んで聞いてもらっていたけれど、母が感想を言うことはありませんでした。それなのに、わたしが読んだ詩を、母も昔、好きだったと聞いて、とてもおどろきました。

それからは、母の高校生のころの話、好きだった勉強、がんばっていた部活のことまで話しました。その日の宿題は、とっても楽しくできました。「ばら二曲」が、母を高校生のあるころにつれもどしたみたいに感じました。

『美文朗誦』の中には、いろいろな詩や俳句、小説、ことわざなどがのっています。宿題ではどこを読んでも良いことになっています。わたしははじめ、どれも読むのがいやで、適当に読むことが多かったけれど、この間のことがあってからはだんだん詩や俳句が好きになっていきました。それに、家族に聞かせると、

「上手になってきたね。また聞きたいな」と言われるので、読んで良かったなと思います。

今、わたしが一番好きなのは中原中也の「月夜の浜辺」です。ひとつのボタンが、指先にしみて、心にしみるなんて、とてもきれいな言葉だと思って心に残ったからです。それを学校で友達に話したら、美紅ちゃんも、守くんも、

「その詩、好き」と言ってくれました。

二人は、「月に向って抛れず」とか、「それを拾って 役立てようと 僕は思ったわけでもないが なぜだかそれを捨てるに忍びず 僕はそれを 袂に入れた」というところが好きなのだそうです。心に残る場面は違っていても、同じ詩が好きな人がいて、わたしはうれしくなりました。

『美文朗誦』のおかげで、たくさんの方の文章に本の中で出会うことができるし、友達や母とも話ができます。今までにない楽しさが増えたような気がします。これからも『美文朗誦』をたくさん読んでいきたいと思えます。